

9. 研究

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向

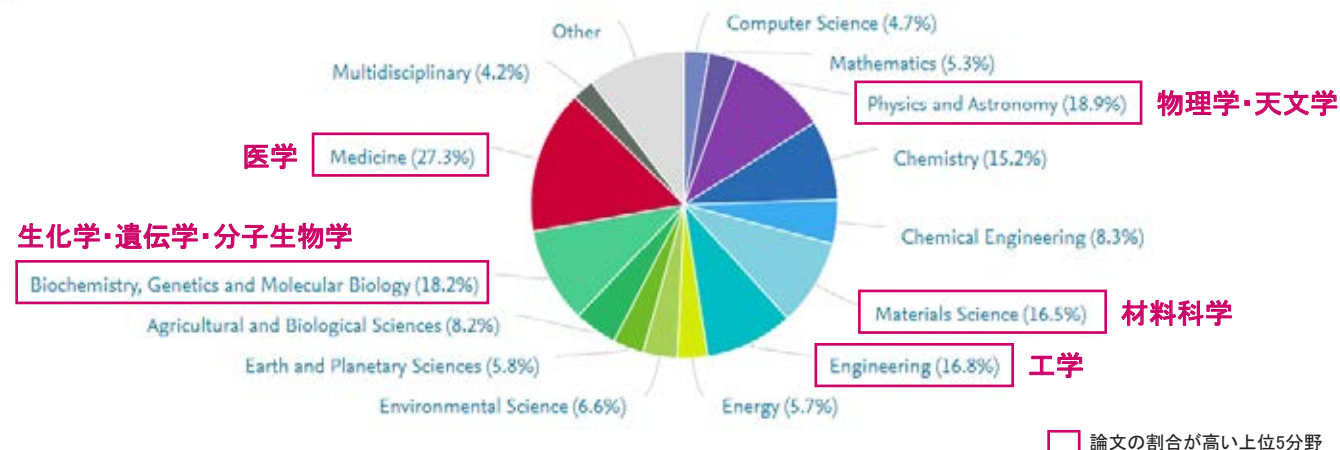
Kyushu University | 2018 to 2022 Articles & Reviews

[View Publication Set definition](#)

2018 to 2022 All subject areas ASJC

※ 円グラフは、2018年から2022年の間に九州大学所属の研究者によって出された論文のScopusジャーナル分野別割合を示す。

Overall research performance



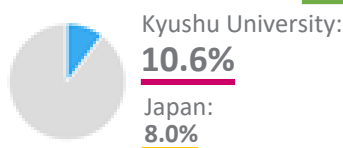
Performance indicators

Outputs in Top Citation Percentiles ①

Publications in top 10% most cited worldwide

Show as field-weighted

トップ10%補正論文

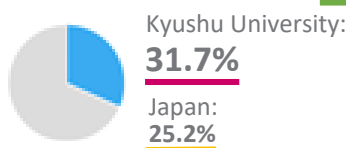


Publications in Top Journal Percentiles ①

Publications in top 10% journals

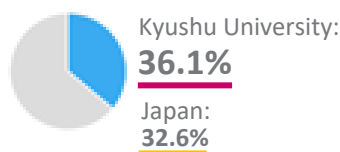
by CiteScore Percentile

トップ10%ジャーナル掲載論文



International Collaboration ①

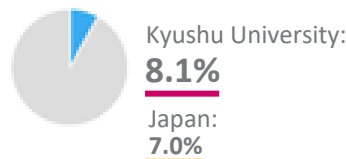
Publications co-authored with Institutions in other countries/regions



国際共著論文

Academic-Corporate Collaboration ①

Publications with both academic and corporate affiliations



産学共著論文

九州大学
日本平均

(※1) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

論文指標の抽出条件

文献タイプ : Articles and reviews、ジャーナル評価指標 : CiteScore Percentile、自己引用 : 含む、分野補正 : TOP10%補正論文 有 ; 国際共著論文 無

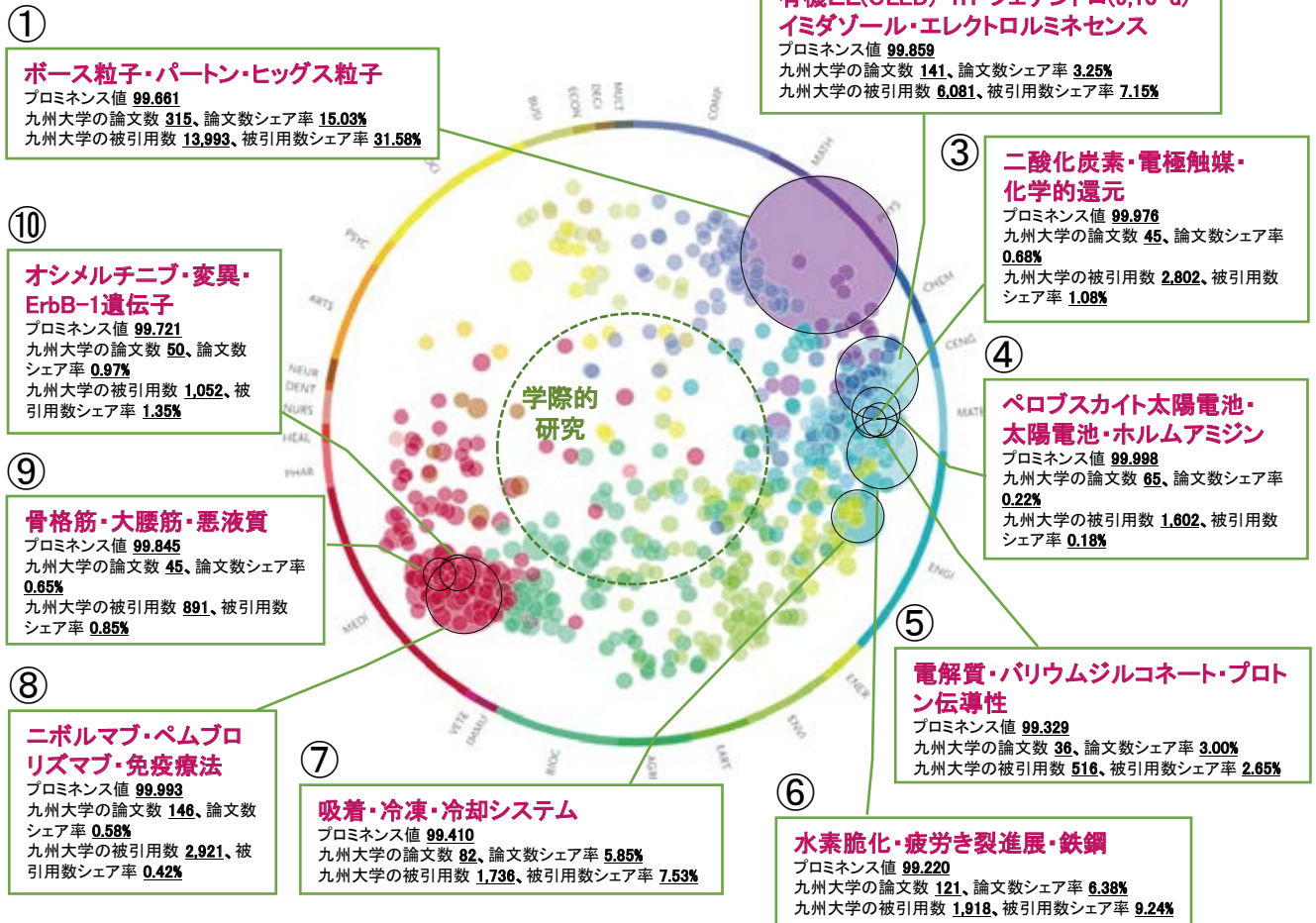
出典 : Elsevier 社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向(つづき)

トピックプロミネンスー論文の引用関係に基づいた大学の強み研究分析ー

プロミネンス上位1%のトピック (2018-2022)

①～⑩はプロミネンス上位1%のトピックの内、論文数の多い上位10トピック
これらのトピックは本学の論文数が多く、本学の中でも活発な研究分野と言える。



COMP	コンピュータ科学	ENER	エネルギー科学	MEDI	医学	PSYC	心理学
MATH	数学	ENVI	環境科学	PHAR	薬理学・毒性学・薬学	SOCI	社会科学
PHYS	物理学・天文学	EART	地球科学・惑星学	HEAL	健康衛生学	BUSI	ビジネス・経営学・会計学
CHEM	化学	AGRI	農学及び生物科学	NURS	看護学	ECON	経済学・計量経済学・金融
CENG	化学工学	BIOC	生化学・遺伝学・分子生物学	DENT	歯科学	DECI	意思決定科学
MATE	材料科学	IMMU	免疫学・微生物学	NEUR	神経科学	MULT	学際分野
ENGI	工学	VETE	獣医学	ARTS	人文学		

・ Topic Prominence 機能の概要
Scopusの文献を引用リンクに基づいて約96,000のトピックおよび約1,500のトピッククラスタにクラスタリングし、Prominenceによってランク付けしました。Prominenceは、直近の文献の被引用数、Scopus表示回数、CiteScoreを見ることによってトピックの現在の勢い、注目度を示します。最も高いProminenceパーセンタイルは100です。Prominenceは、助成金と相関関係があり、研究者や管理者が助成金が増える可能性が高いトピックを特定するのを支援します。(「Elsevier社_クイックレファレンスガイド 2020年5月」より抜粋)
2018年から2022年の間に出版された九州大学の論文のうち、7,884の研究分野が注目度の高いトピックとして出現している。

- ◆見方◆
- ・ 外側の円周：Scopusで用いられている研究分野(ASJCの27中分類)を色別に表示。
 - ・ 小さい円：各トピック。
 - ・ 小さい円の大きさ：各トピックを構成する論文の数を表す。
 - ・ 小さい円の色：トピックを構成する論文の分野のうち、割合が最も大きい分野を円周上の分野の色で示したもの。
 - ・ 小さい円の位置：トピックを構成する論文の分野の割合に基づいて配置されている。学際的なものは中心に位置する傾向にある。

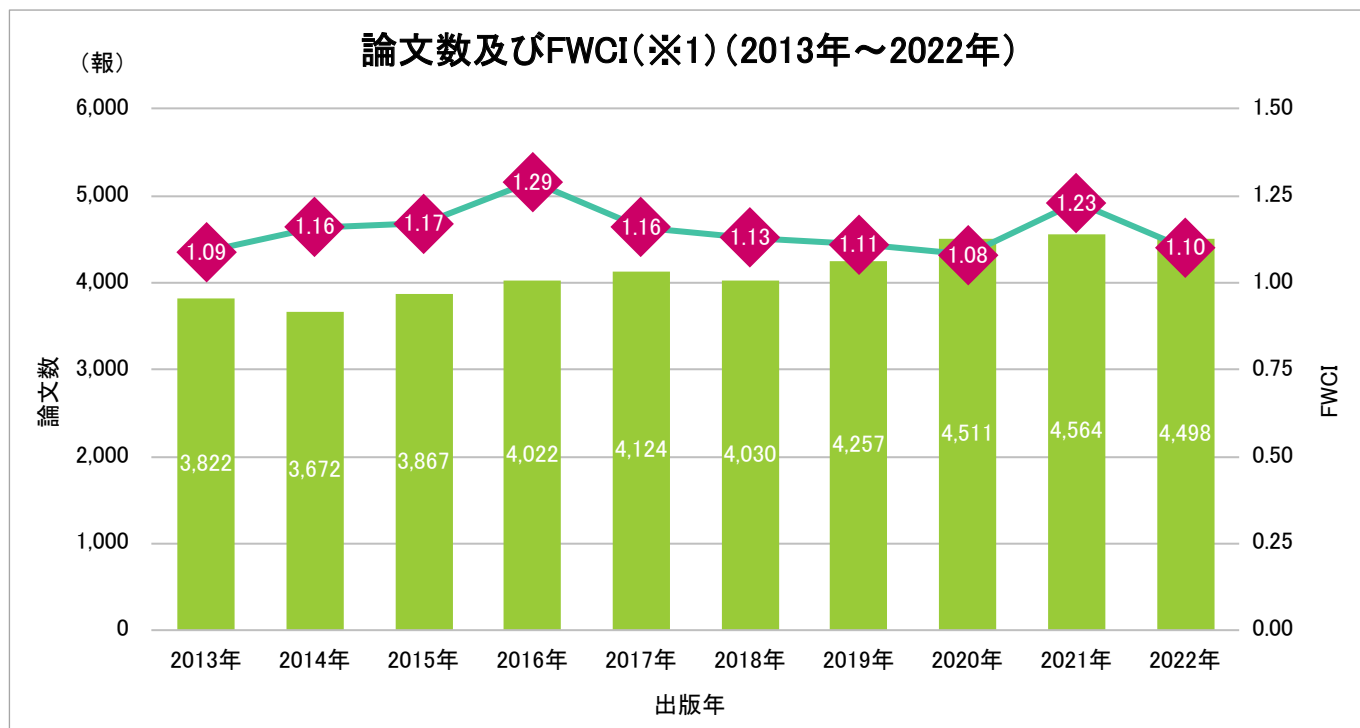
論文指標の抽出条件
文献タイプ：Articles and reviews、自己引用：含む

出典：Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較

■論文数及びFWCIの推移

◆九州大学◆



◆RU11(※2)での比較◆

【Scholarly Output (論文数)】

順位	大学名	論文数
1	東京大	53,810
2	京都大	37,058
3	大阪大	29,270
4	東北大	28,228
5	名古屋大	22,127
6	九州大	21,860
7	北海道大	20,909
8	筑波大	16,147
9	東京工業大	14,684
10	慶應義塾大	14,587
11	早稲田大	9,356

(2018～2022)

【Citation Count (被引用数)】

順位	大学名	被引用数	論文あたりの平均被引用数
1	東京大	871,975	16.2
2	京都大	565,250	15.3
3	大阪大	386,849	13.2
4	東北大	363,963	12.9
5	名古屋大	304,763	13.8
6	九州大	292,384	13.4
7	北海道大	262,773	12.6
8	筑波大	231,531	14.3
9	東京工業大	197,227	13.4
10	慶應義塾大	191,109	13.1
11	早稲田大	111,230	11.9

(2018～2022)

【FWCI(論文のインパクト)】

順位	大学名	FWCI
1	東京大	1.33
2	筑波大	1.25
3	京都大	1.23
4	慶應義塾大	1.19
5	名古屋大	1.18
6	九州大	1.13
7	早稲田大	1.12
8	大阪大	1.10
9	東北大	1.07
10	北海道大	1.05
10	東京工業大	1.05

(2018～2022)

(※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※2) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立大学の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

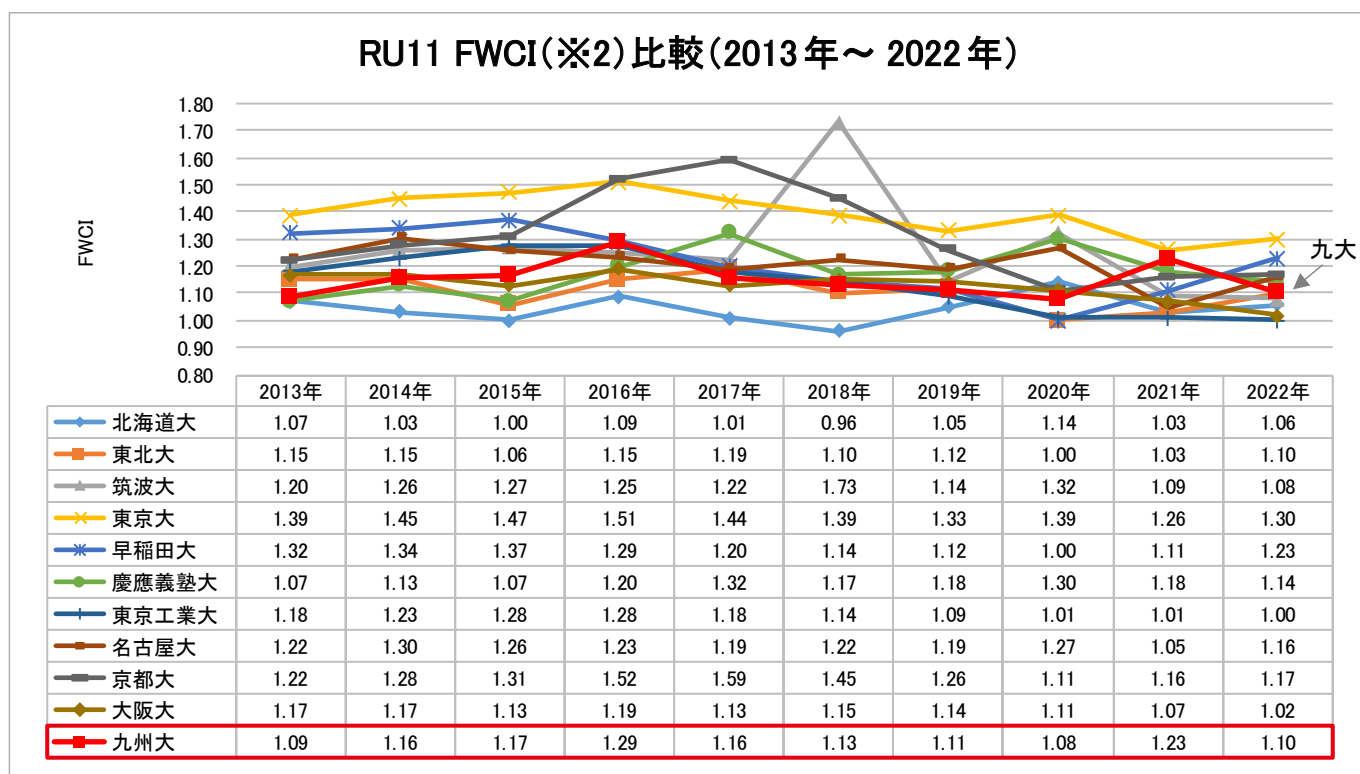
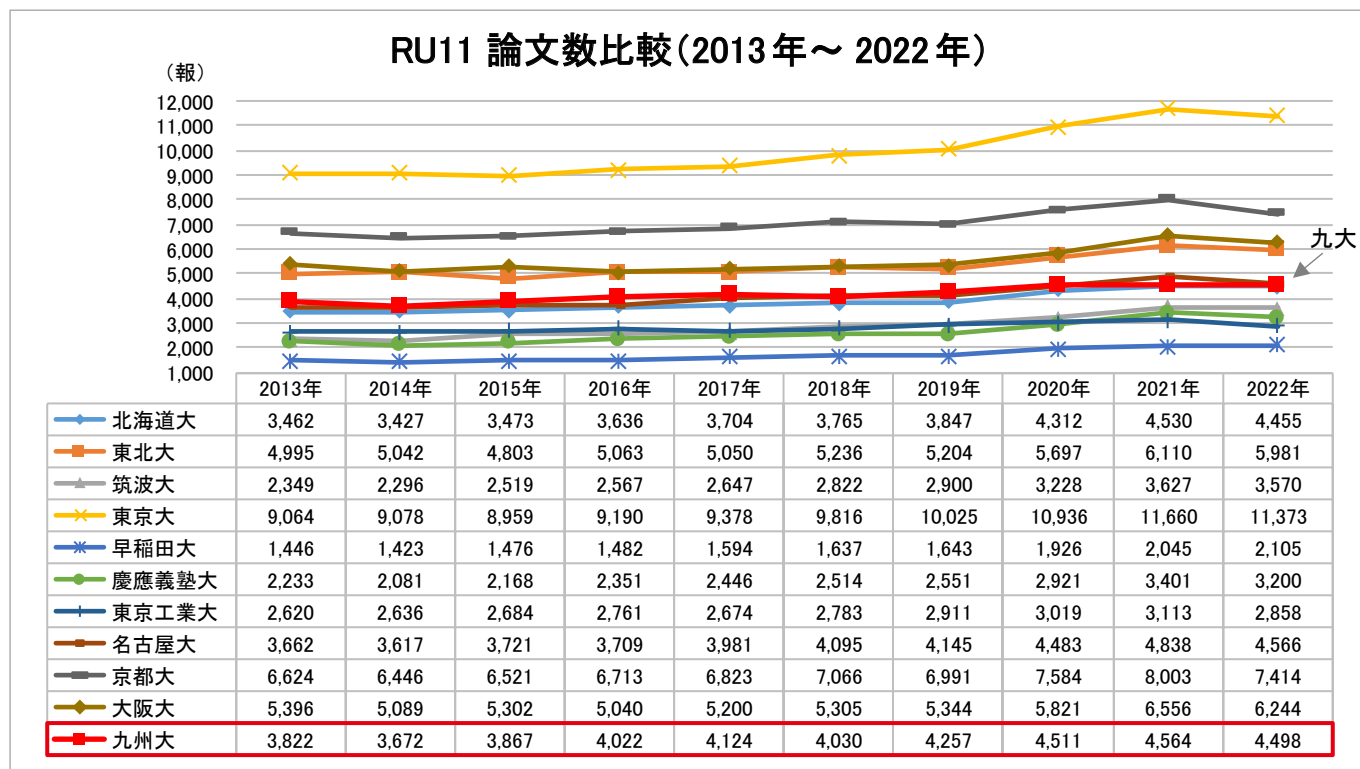
論文指標の抽出条件

文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む

出典 : Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

(※2) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

論文指標の抽出条件

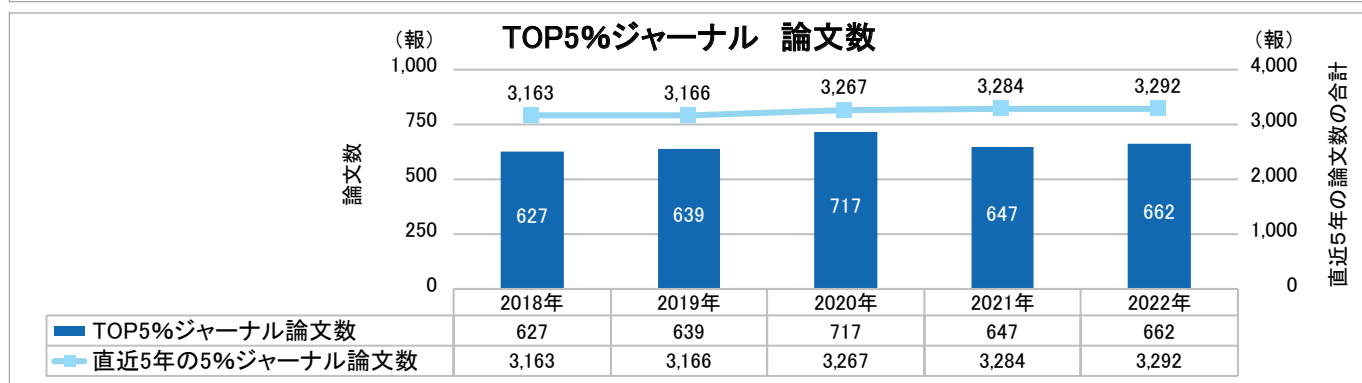
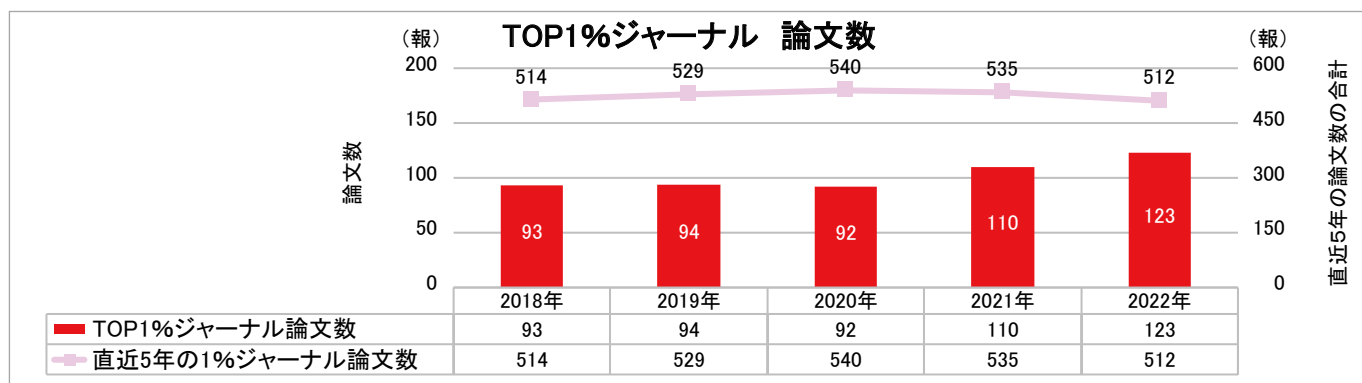
文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む

出典 : Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

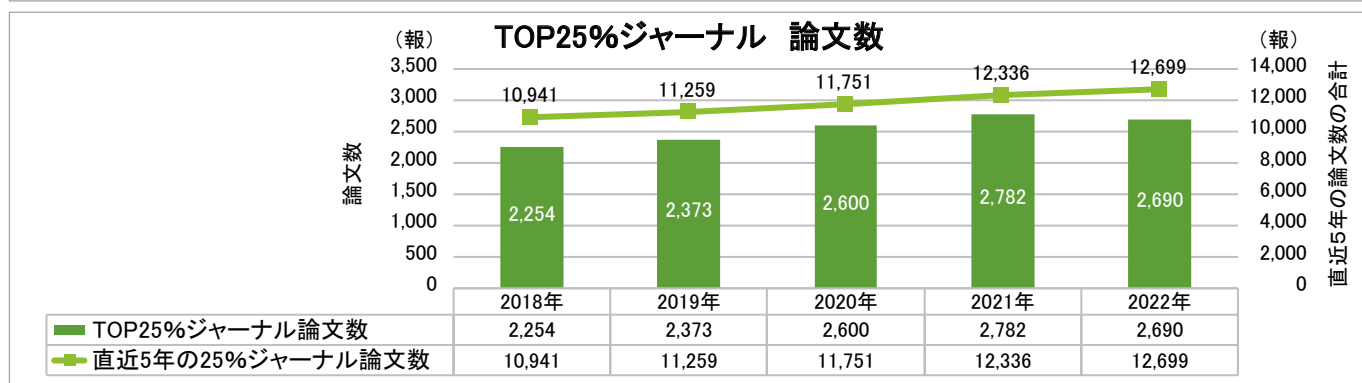
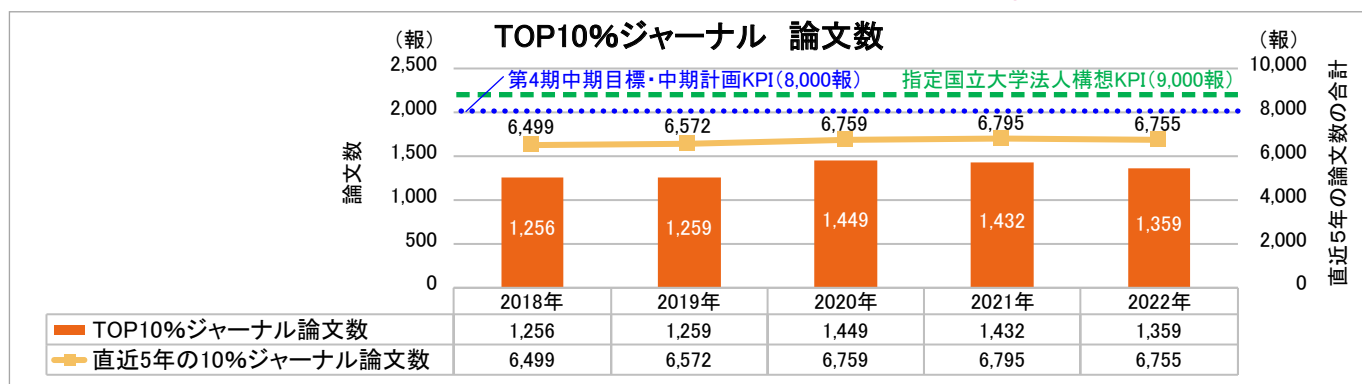
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■世界トップのジャーナルに掲載された論文数と割合推移

◆九州大学◆



★指定国立大学法人構想の成果指標(KPI)です



- ・ TOP x %ジャーナルに掲載された論文数とは、被引用数ベースで世界トップ%ジャーナルに掲載された論文数。Scopusにおける各年の被引用数を元に、上位1%、5%、10%、25%に含まれるジャーナルに掲載された論文数を示すもの。
- ・ 折れ線は、当該年を含む直近5年のTOP x %ジャーナル論文数の合計。

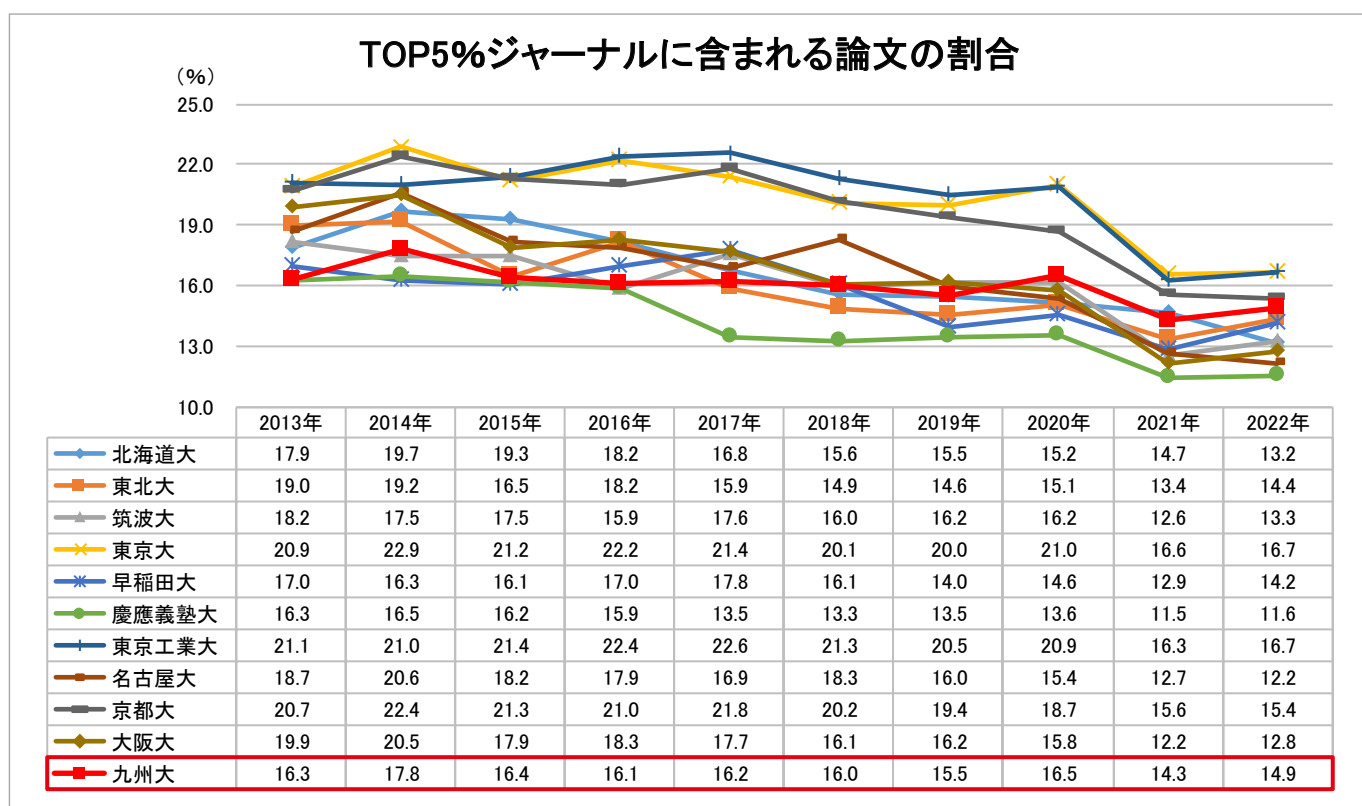
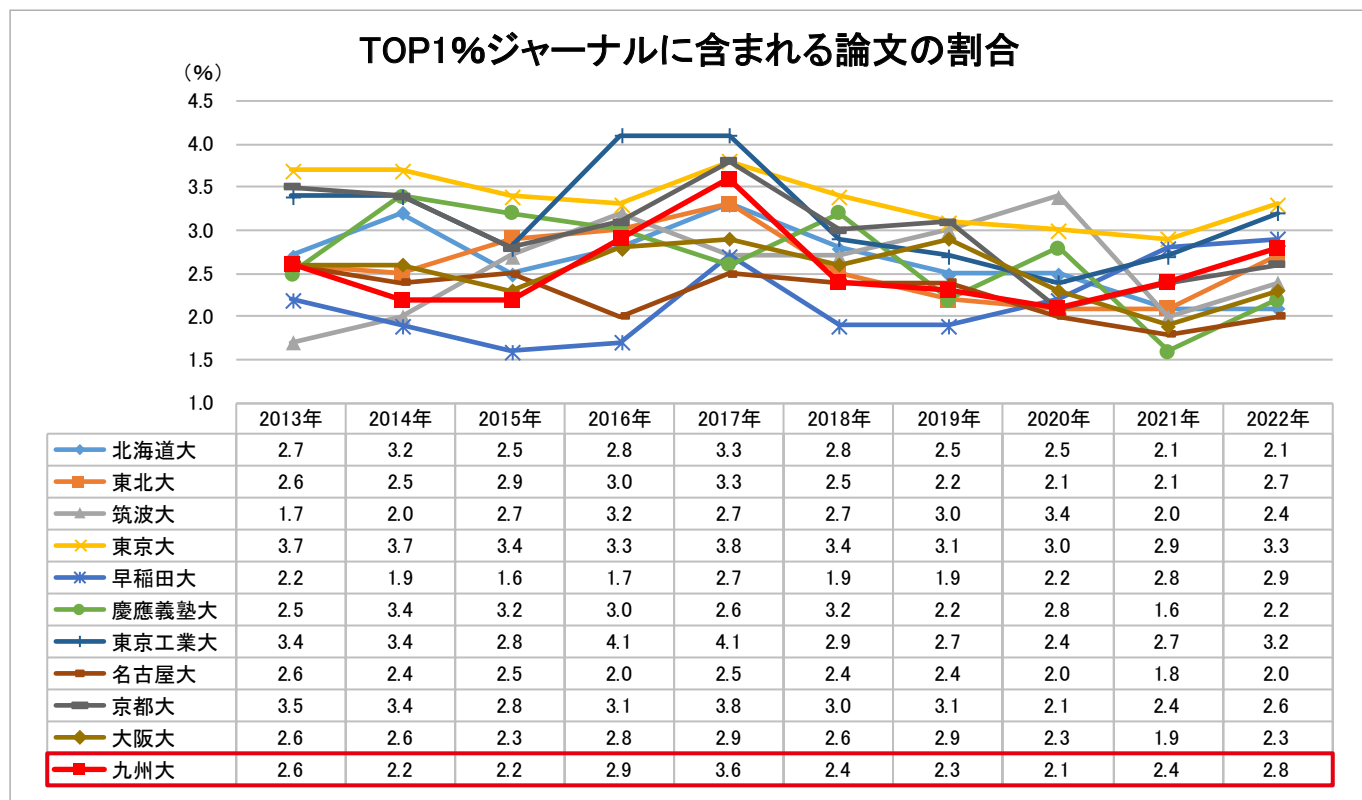
論文指標の抽出条件

文献タイプ：Articles and reviews、ジャーナル評価指標：CiteScore Percentile

出典：Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

◆RU11 (※1) での比較◆



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

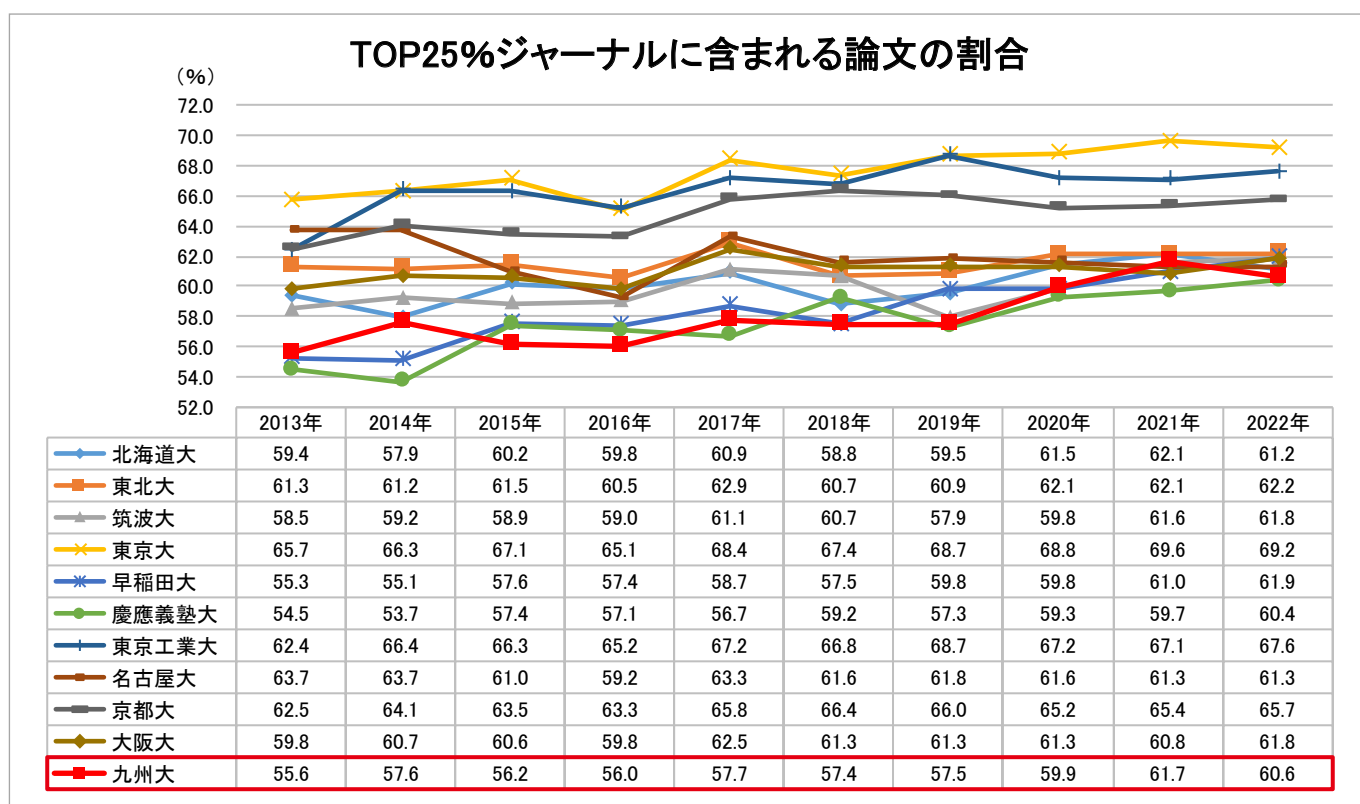
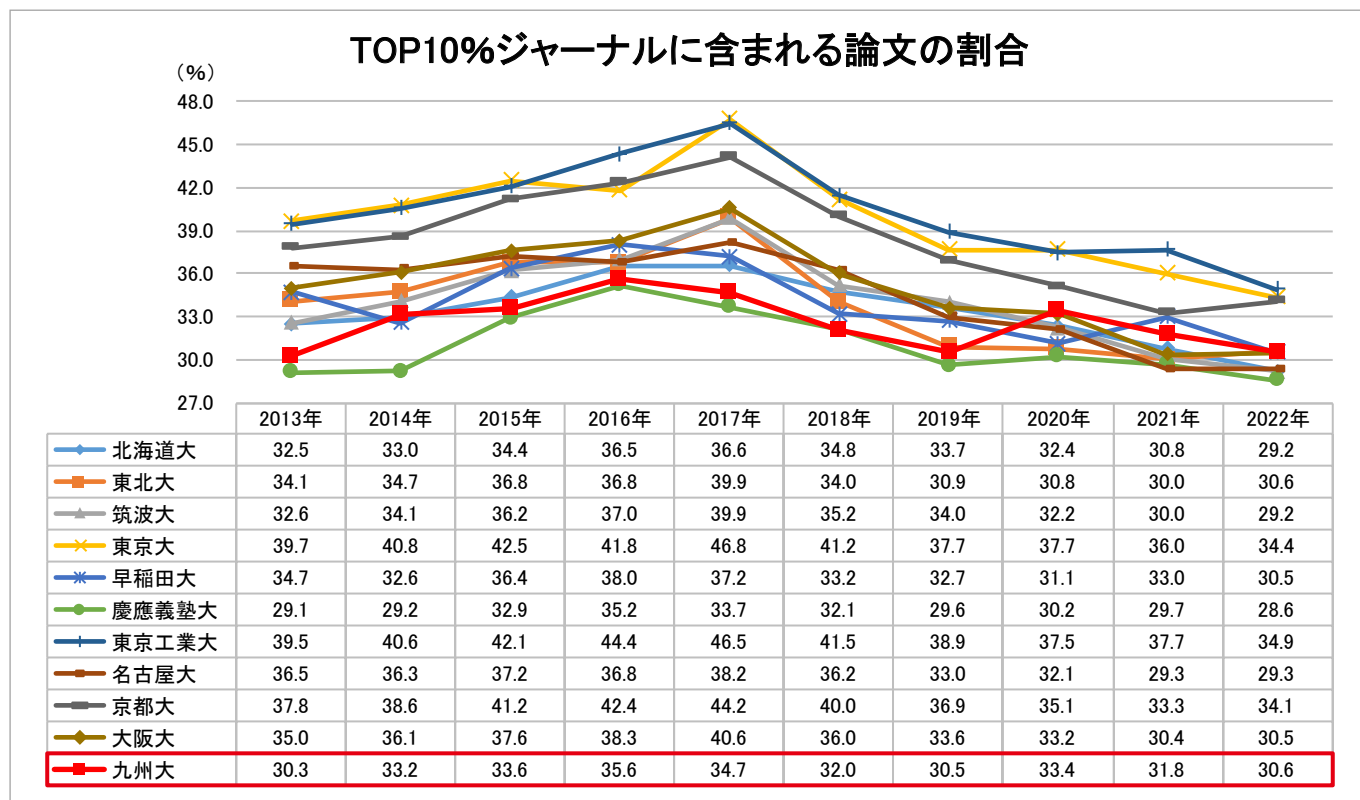
論文指標の抽出条件

文献タイプ : Articles and reviews、ジャーナル評価指標 : CiteScore Percentile

出典 : Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

◆RU11 (※1) での比較◆(つづき)



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、ジャーナル評価指標: CiteScore Percentile

出典: Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

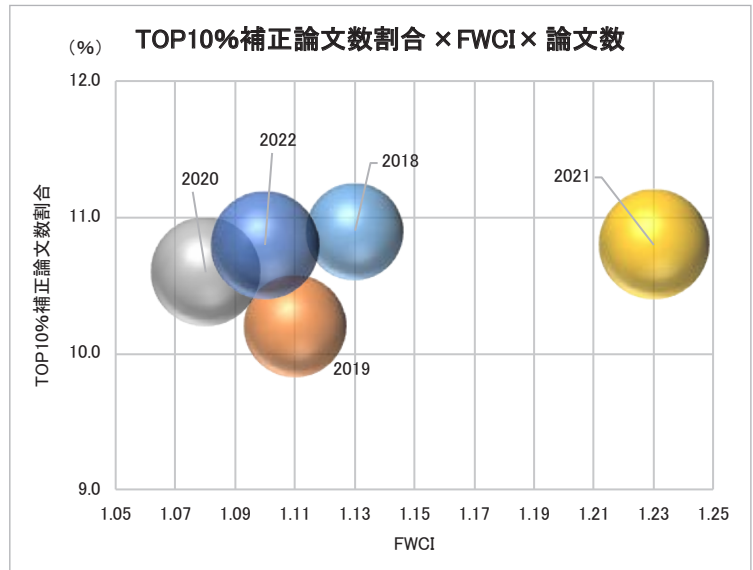
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■ 論文の量と質の総合比較

◆ 九州大学 ◆ (2018年～2022年)

本学のTOP10%補正論文数割合(※1)(縦軸) × FWCI(※2)(横軸) × 論文数(バブル大きさ)

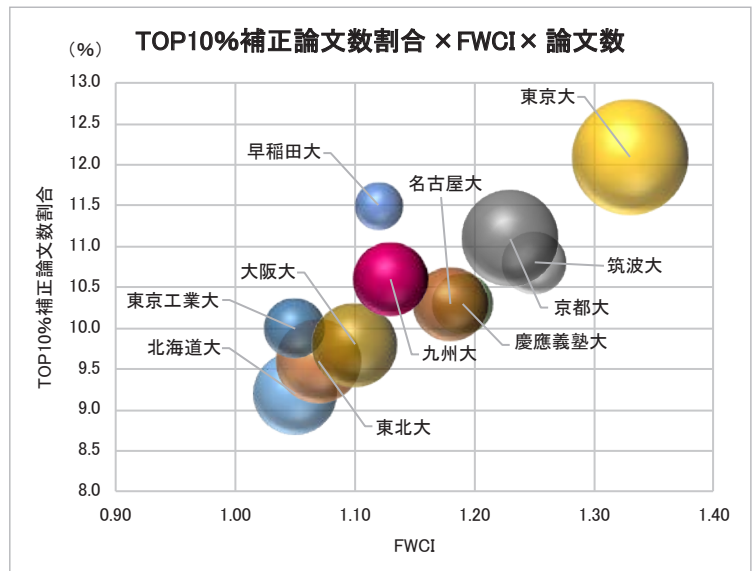
年	TOP10%補正論文数割合 (%)	FWCI	論文数
2018	10.9	1.13	4,030
2019	10.2	1.11	4,257
2020	10.6	1.08	4,511
2021	10.8	1.23	4,564
2022	10.8	1.10	4,498
平均	10.6	1.13	4,372



◆ RU11 (※3) での比較 ◆ (2018年～2022年の平均)

TOP10%補正論文数割合(縦軸) × FWCI(横軸) × 論文数(バブル大きさ)

大学名	TOP10%補正論文数割合 (%)	FWCI	論文数
北海道大	9.2	1.05	4,182
東北大	9.6	1.07	5,646
筑波大	10.8	1.25	3,229
東京大	12.1	1.33	10,762
早稲田大	11.5	1.12	1,871
慶應義塾大	10.3	1.19	2,917
東京工業大	10.0	1.05	2,937
名古屋大	10.3	1.18	4,425
京都大	11.1	1.23	7,412
大阪大	9.8	1.10	5,854
九州大	10.6	1.13	4,372



(※1) TOP10%補正論文数割合

被引用ベースで世界トップに入る論文数(分野補正した値)の割合。Scopusにおける各年の被引用数をもとに上位10%に含まれる論文数の割合を示すもの。

(※2) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※3) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

論文指標の抽出条件

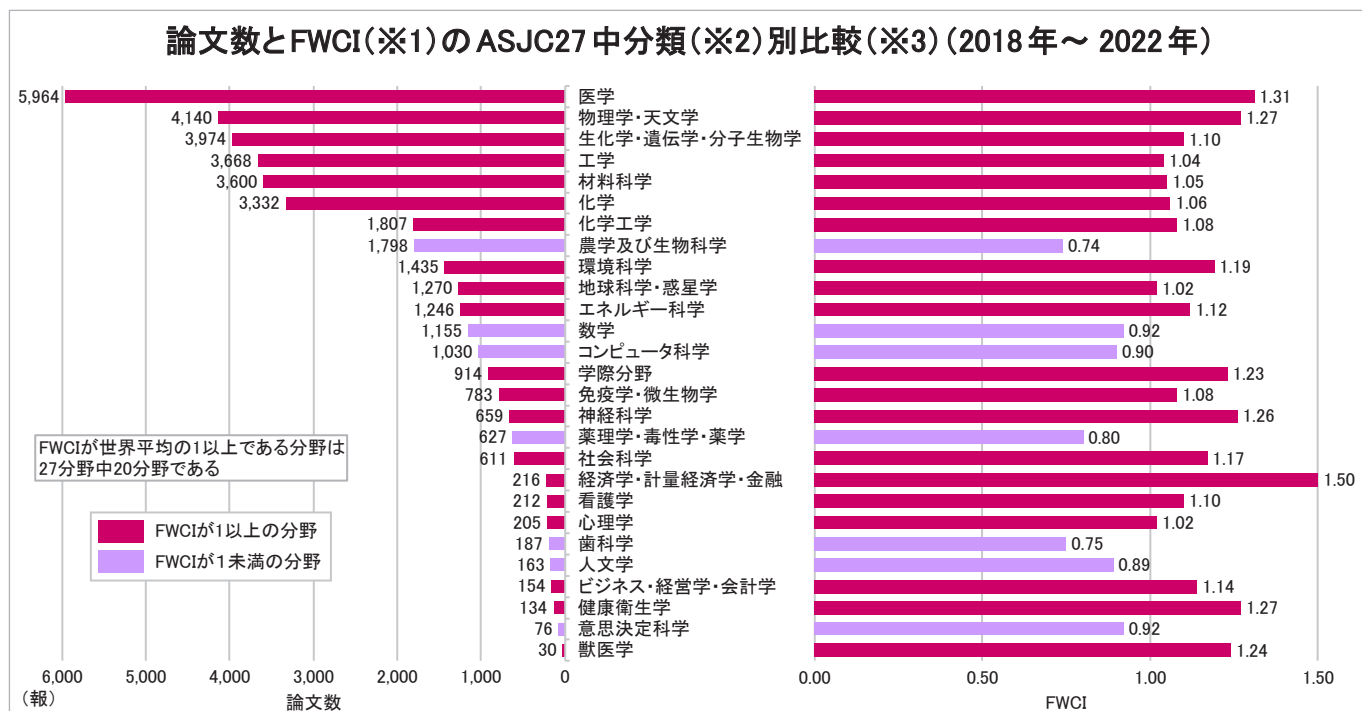
文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む、分野補正 : 有

出典 : Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

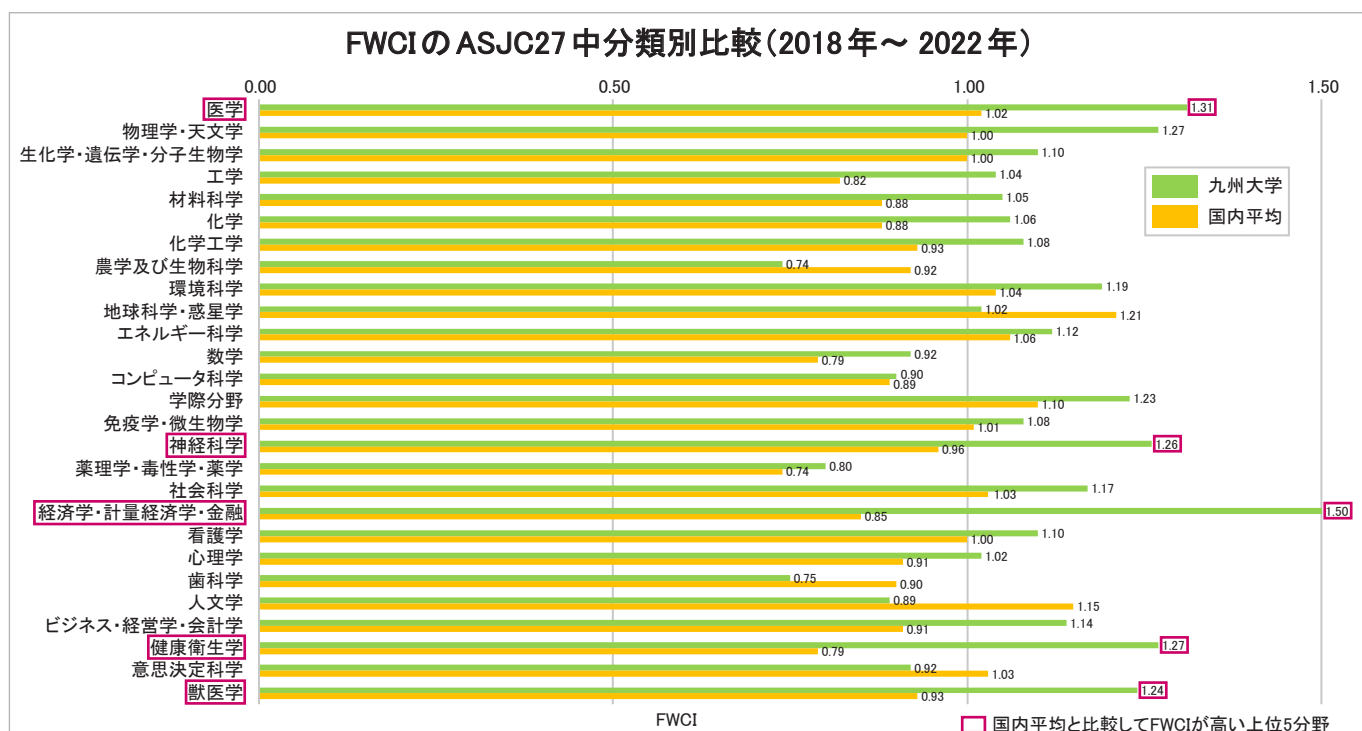
9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■本学と国内平均の比較(ASJC27中分類別) — FWCI —

◆九州大学◆



◆国内平均と九州大学との比較◆



(※1) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※2) ASJC27中分類
Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Science Journal Classification)に基づく27の中分類。

(※3) 論文数が多くFWCIが高いほど研究力に厚みがあること(大学の強み)を表す。また、論文数が少なくFWCIが高い場合は、研究力の高い特定の教員の存在を示す場合が多い。なお、特定の教員が巨大な研究者コミュニティに所属する場合は、論文数・FWCI共に値が高くなる場合が多い。

論文指標の抽出条件

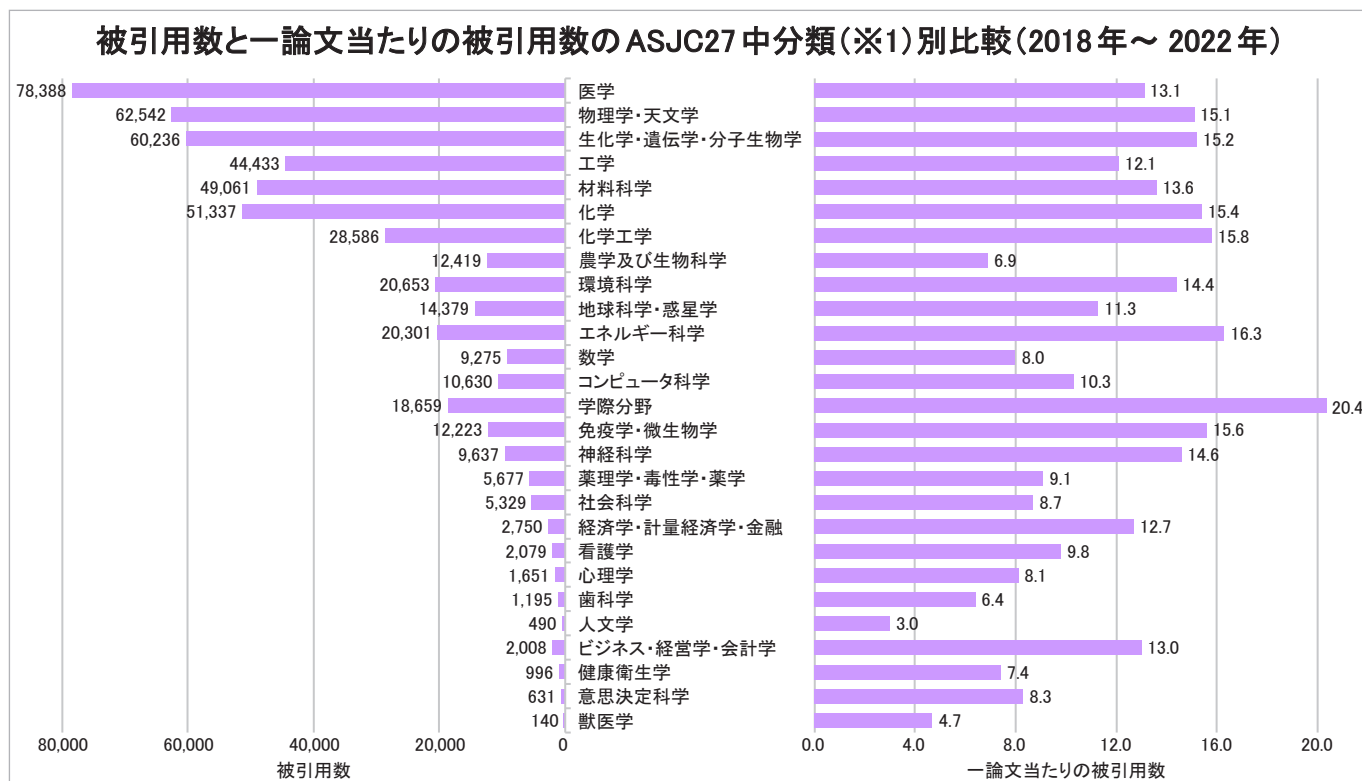
文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む

出典 : Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

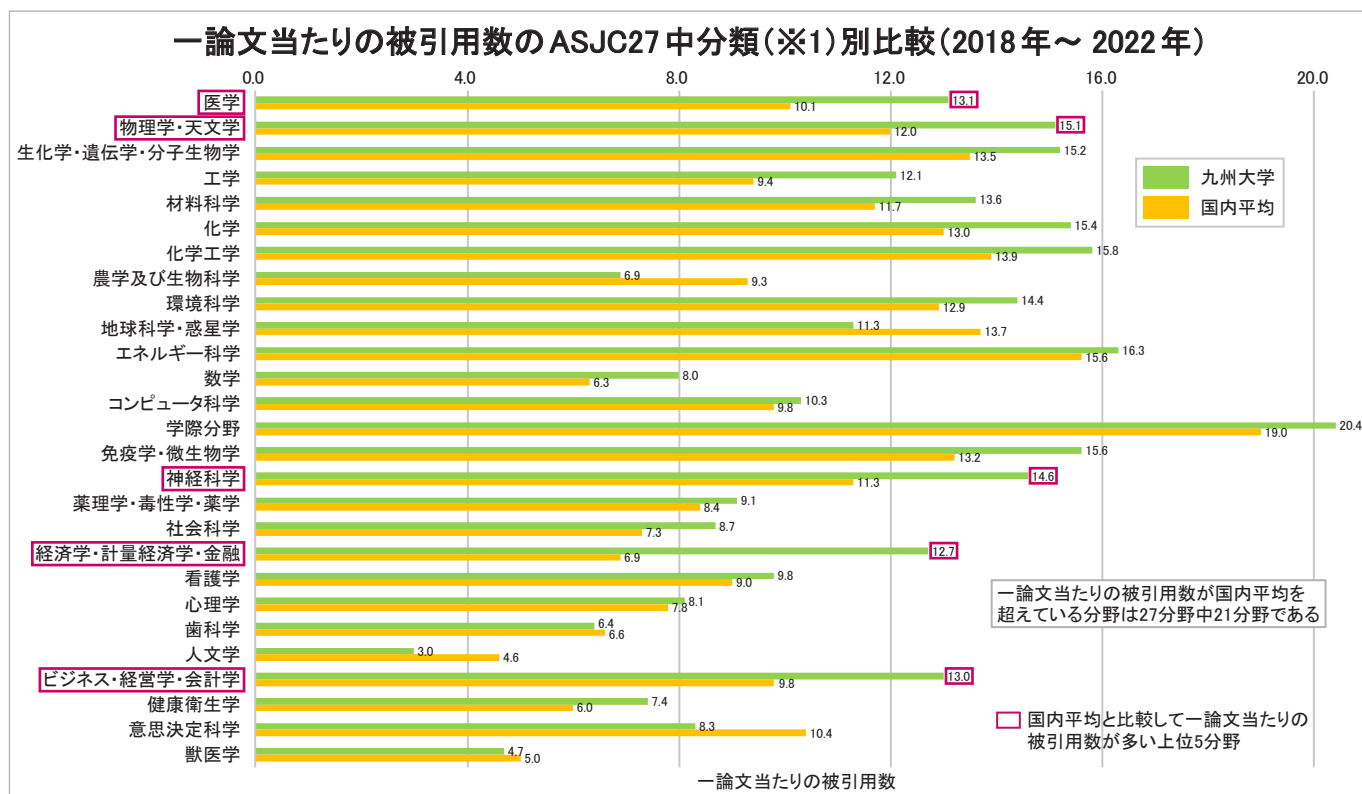
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■ 本学と国内平均の比較 (ASJC27 中分類別) — 一論文当たりの被引用数 —

◆ 九州大学 ◆



◆ 国内平均と九州大学との比較 ◆



(※1) ASJC27中分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Science Journal Classification)に基づく27の中分類。

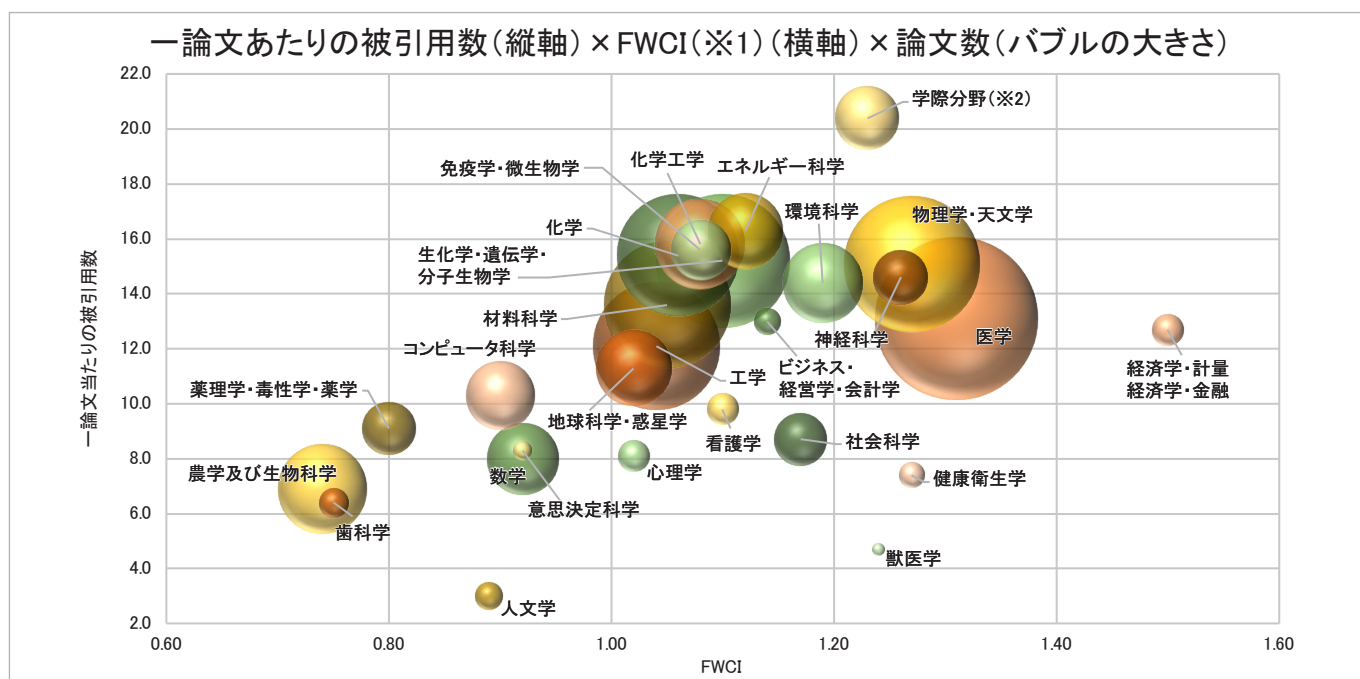
論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

出典: Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC27 中分類別) (2018年~2022年)



■本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC334 小分類別) (2018年~2022年)

【FWCIが高い上位10小分野(※3)】

FWCI順位	ASJC27 中分類(※4)	ASJC334 小分類(※4)	FWCI	論文数
1	Nursing (看護学)	Psychiatric Mental Health (精神医学的メンタルヘルス)	17.40	3
2	Immunology and Microbiology (免疫学・微生物学)	Parasitology (寄生虫学)	3.63	21
3	Medicine (医学)	General Medicine (医学(全般))	3.57	399
4	Medicine (医学)	Anatomy (解剖学)	3.55	29
5	Health Professions (健康衛生学)	Optometry (視力測定)	3.36	1
6	Veterinary (獣医学)	Equine (馬獣医学)	2.91	3
6	Veterinary (獣医学)	Small Animals (小型動物)	2.91	3
8	Business, Management and Accounting (ビジネス、経営学、会計学)	Business and International Management (ビジネス・国際経営)	2.45	27
9	Economics, Econometrics and Finance (経済学・計量経済学・金融)	General Economics, Econometrics and Finance (経済学・計量経済学・金融(全般))	2.42	15
10	Engineering (工学)	Engineering (miscellaneous) (工学(その他))(※5)	2.40	206

(※1) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを示す。

(※2) 学際分野とは、「Nature」や「Science」のような総合学術雑誌に掲載された論文を示す。

(※3) FWCIが世界平均1.0を超えている小分野は、全334分野中142分野である。FWCIが高く論文数が少ない分野は、研究力の高い特定の教員が存在する可能性がある。FWCIが高く論文数も多い分野は、研究力に厚みがあること(大学の強み)を示す。

(※4) ASJC27 中分類、ASJC334 小分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類。

翻訳協力: 大学改革支援・学位授与機構。(中分類の翻訳はエルゼビア社による。)

(※5) 工学(その他) : 次の項目以外の分野

航空宇宙工学、自動車工学、生体医工学、土木・構造工学、計算力学、制御・システム工学、電気電子工学、管理工学・生産工学、機械工学、材料力学、海洋工学、安全・リスク・信頼性・品質管理、メディア工学、建設工学、建築学

論文指標の抽出条件

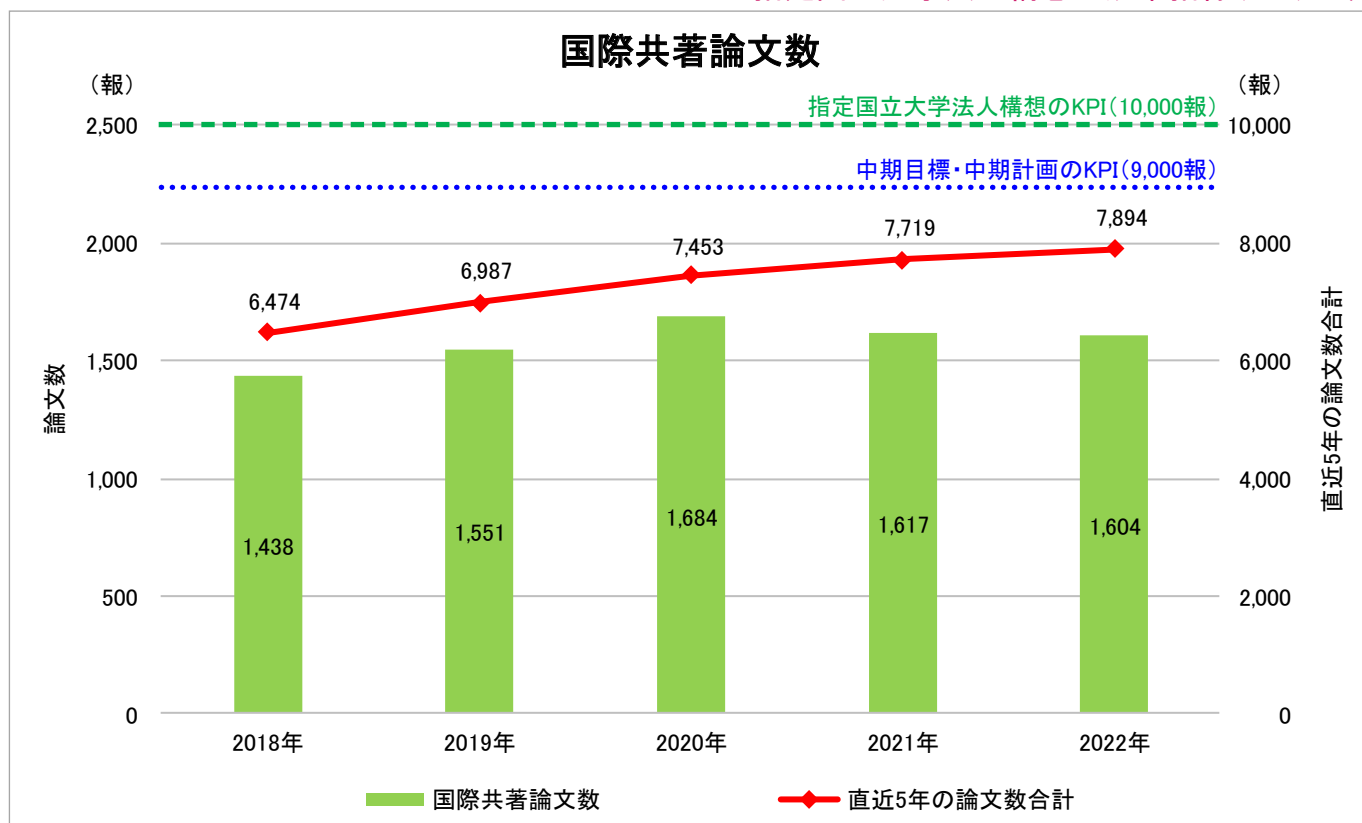
文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

出典: Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-3. 国際共著論文

◆九州大学◆

★指定国立大学法人構想の成果指標(KPI)です



・折れ線は、当該年を含む直近5年の国際共著論文数の合計。

◆研究院別◆ (2018年～2022年)

順位	研究院	国際共著論文数(合計)(報)	国際共著論文比率(平均)(%)
1	工学研究院	1,202	33.5
2	理学研究院	955	50.6
3	医学研究院	763	16.9
4	農学研究院	693	42.3
5	総合理工学研究院	473	42.8
6	システム情報科学研究院	375	39.6
7	薬学研究院	154	26.2
8	歯学研究院	150	24.0
9	芸術工学研究院	83	27.5
10	比較社会文化研究院	71	45.8
11	人間環境学研究院	50	29.2
12	数理学研究院	48	27.6
13	経済学研究院	39	26.9
14	言語文化研究院	7	21.9
15	法学研究院	6	75.0
16	人文科学研究院	3	10.0

論文指標の抽出条件

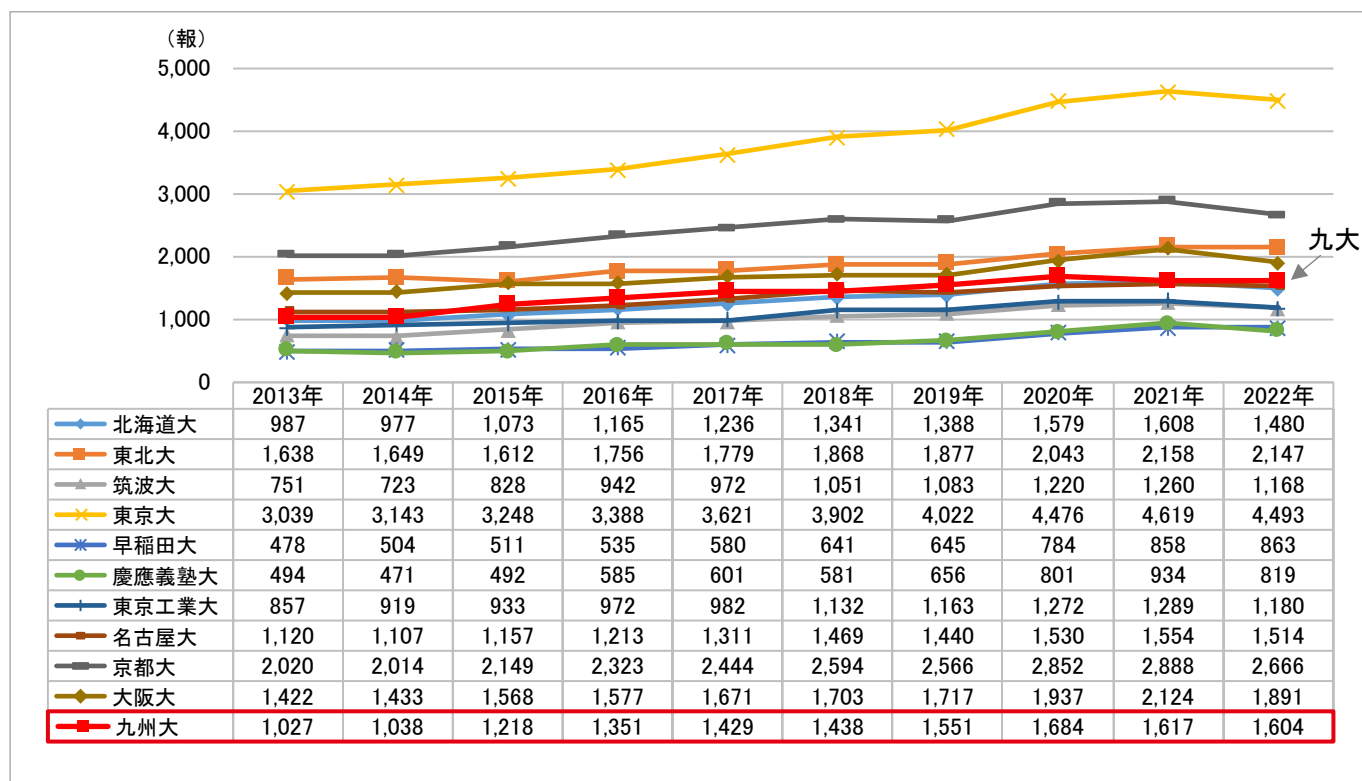
- 文献タイプ: Articles and reviews、分野補正: 無
- ・研究院別国際共著論文数: 2023年4月1日時点在籍教員の国際共著論文を集計。(他機関在籍時の論文も含む)

出典: Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

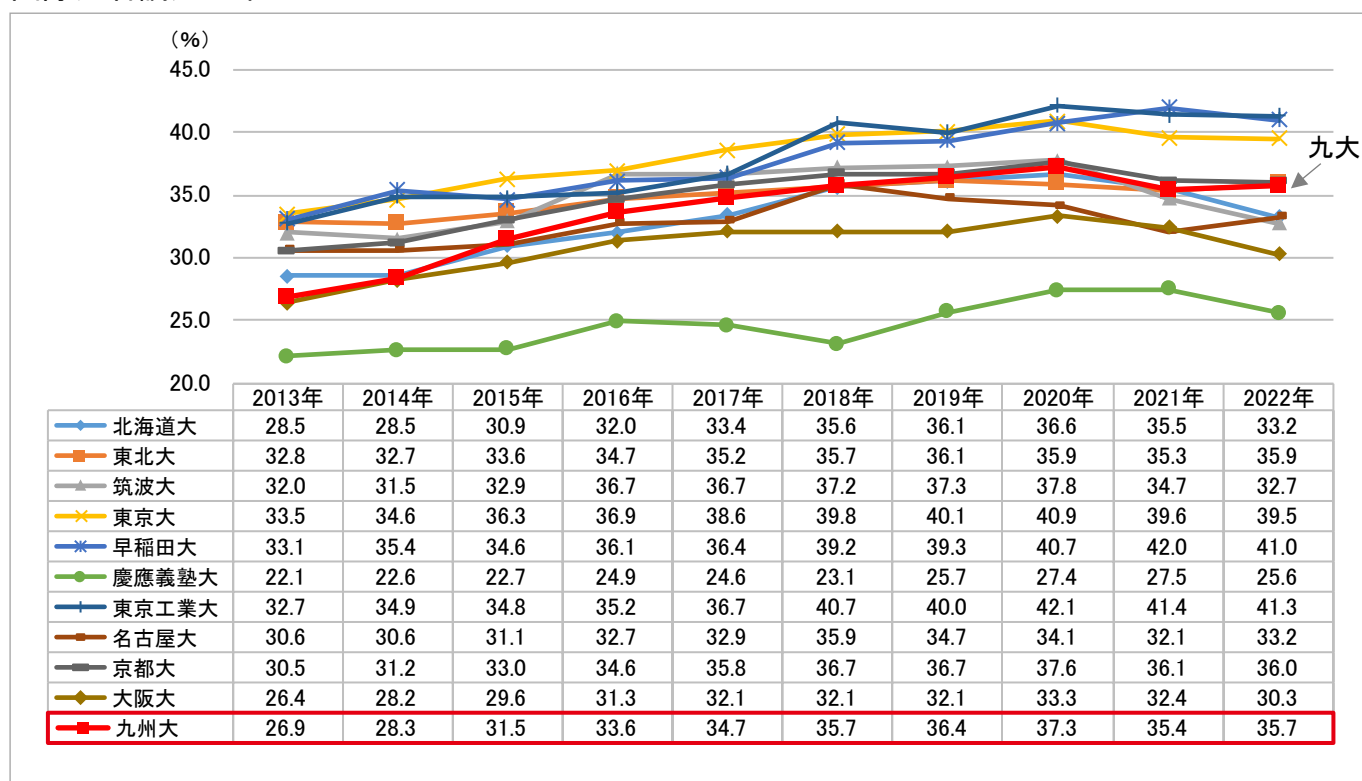
9-3. 国際共著論文(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆(2013年~2022年)

国際共著論文数



国際共著論文比率



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、分野補正: 無

出典: Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)

9-3. 国際共著論文(つづき)

■ 世界各機関との国際共著状況 (2018~2022年)

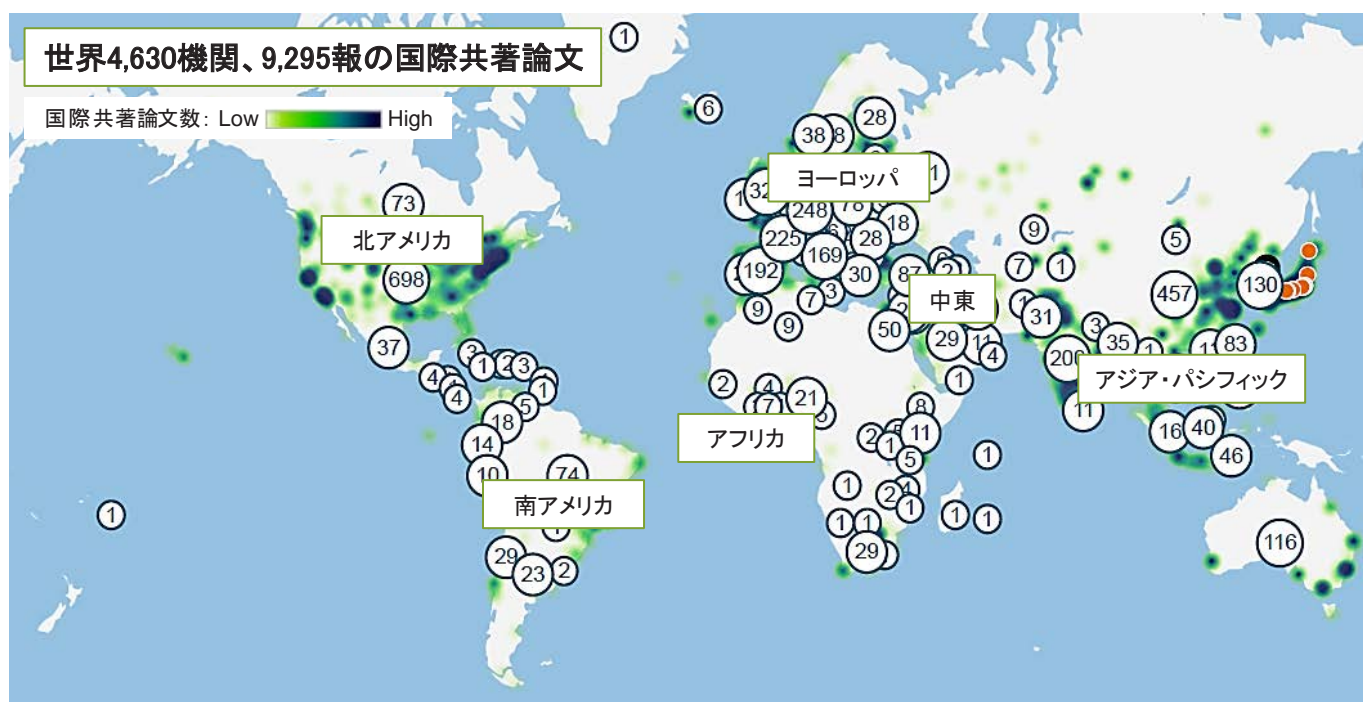
北アメリカ
830機関、2,912報の国際共著論文



ヨーロッパ
1,837機関、3,100報の国際共著論文



アジア・パシフィック
1,324機関、6,595報の国際共著論文



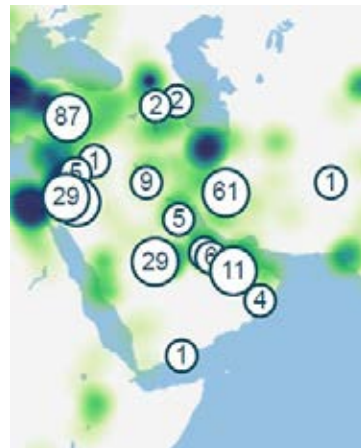
南アメリカ
177機関、634報の国際共著論文



アフリカ
192機関、1,098報の国際共著論文



中東
270機関、906報の国際共著論文



・各地図上の数字は、機関数を表すものである。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: All

出典: Elsevier社製「SciVal」(2023年9月現在)